



六万石城下町の夏を彩る

西尾祇園祭

約400年間続く「伊文神社みこし」、時代絵巻さながらに練り歩く「大名行列」、大勢の参加者が迫力のパフォーマンスを繰り広げる「踊ろっ茶・西尾!!」など、催しが盛りだくさん。六万石の城下町が熱気に包まれます。

400年の歴史を誇る祭り

伊文神社では、古くから疫病除けのための祭礼が行われていました。背に御幣を立てて神様を宿した神馬や、牛に乗って女装した神職、子どもたちに囃し立てられた獅子舞が行列を作って町を巡るというものです。戦国時代になると、当時の西尾城主・田中吉政が白木のみこしを伊文神社に奉納。御神体に乗るみこしが町を巡るようになりました。現在は天王町獅子舞や、町人が大名の格好で練り歩く肴町大名行列、中町大屋形などが奉納されています。これらは約300年前、「六ヶ町」と呼ばれる天王町、肴町、中町、横町（現在の幸町）、本町、須田町の6つの町を中心とした町人たちが、神様への奉納のために始めた行事です。

歴代藩主が奨励

延宝9（1681）年、享保9（1724）年に西尾藩主を務めた土井利意は祭りの際、町人がみこしを担いで城の本丸に立ち入ることや大名の格好をすることを許可しました。江戸時代には異例のことでしたが、伊文神社への崇敬と年に一度の祭りを盛り上げようという配慮だったと

考えられています。その後の藩主たちも費用を援助するなど、祭りを奨励。また、純粋な町人の祭りとして武士の介入を禁じたため、武士は屋敷から行列を眺めるだけだったという記録も残っています。歴代藩主の粋な計らいもあって祭りは次第に盛んに。江戸時代中期にはその盛大さから、京都の祇園祭を思い起こさせるものとして「西尾の祇園祭」といわれるようになりました。以来、城下町の夏の風物詩として現代まで受け継がれています。

現在の「西尾祇園祭」

現在の「西尾祇園祭」は、昭和36年に「西尾まつり」として初開催。ちょうどちんパレードなどの催しと、伊文神社みこしや大名行列などの伝統の祭りを合わせて開催してきました。平成7年には、市民総踊り「踊ろっ茶・西尾!!」を開催。毎年1000人以上が参加し、祭りの最終日を盛り上げるイベントとして定着しました。平成22年には、本来の「祇園祭」の姿を後世に継承しようとして「西尾祇園祭」に改称。400年の歴史と新たな魅力が融合し、毎年20万人以上の来場者でにぎわう一大イベントとなっています。



◀重いみこしを担ぐ男衆
威勢のいい掛け声とともに町を練り歩く

伊文神社みこし

西尾祇園祭の中心的な行事です。伊文神社の御神体がみこしに乗り、市街地を巡って歴史公園内の御劔八幡宮まで渡御します。御劔八幡宮にたどり着いたみこしは御旅所で一夜を明かし、伊文神社へ帰ります。明和4(1767)年に京都で造られたみこしの重さは約450キログラム。西尾中学校卒業生などの厄男によって担ぎ出されます。所々で取る休憩の間、人々は御神体が乗るみこしを参拝し、下をくぐり抜けます。夏病みしないといわれているためです。

肴町大名行列

約300年前に始まったとされ、奴と呼ばれる町人が大名の格好で武器を持って練り歩きます。使用する武器は、江戸時代に九州などで実際に使われていたもの。お駕籠や先箱、長持、見通し、大鳥毛、台笠など種類はさまざまで、現在まで大切に受け継がれてきました。子ども大名を先頭に、大人大名、西尾中学校の生徒による長刀隊が続ぎ、100人以上の大行列で市街地を進みます。平成28年には、西尾城の鎗石門を通過する、かつての姿が復活しました。



◀大鳥毛を投げ渡す奴
観客の目の前で行う力強い演技は大名行列の華



肴町大名行列

祭礼長
筒井 栄一さん

肴町

まちの伝統を次世代に

肴町で生まれ、父親が参加する姿を見て育ちました。私も小学生になる前から参加しています。現在は息子が毎年参加してくれるのがうれしいですね。

大名行列はまちの伝統行事です。これからも続けていきたいのですが、高齢化により町では担い手が減ってきています。伝統を守るため、祭りの魅力や楽しさを伝えて参加者を増やしたいですね。希望者はぜひお声掛けください。



伊文神社みこし

巳午会祭礼長
佐々木 卓さん

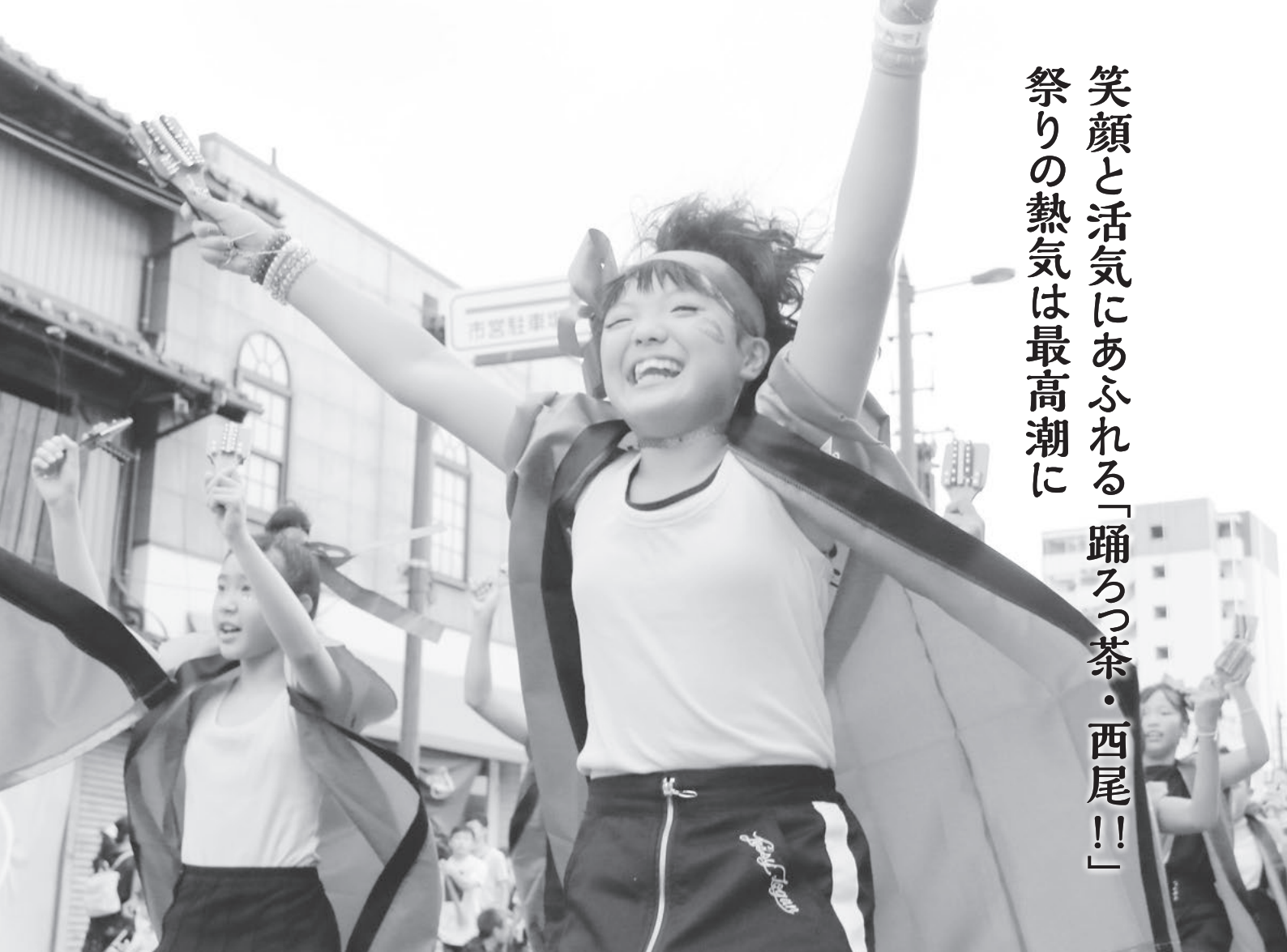
須田町

祭りの「主役」として

本町の祭礼長として本番に向け準備しています。みこしを担ぐのは西尾中学校卒業生が中心の約200人。祭りの高揚感を感じるのはもちろん、同級生と顔を合わせることで学生時代に戻ったような気分になり、とても楽しいひとときです。一方、歴史ある神事の担い手として、身の引き締まる思いもあります。約1年前から始めた準備は大変でしたが、当日は祇園祭の「主役」として、晴れ舞台を楽しみたいと思います。



笑顔と活気にあふれる「踊ろっ茶・西尾!!」 祭りの熱気は最高潮に



踊ろっ茶・西尾!!

市民総踊り「踊ろっ茶・西尾!!」は、今年で24回目を迎えます。個性あふれる衣装を身に付けた参加者が、気持ちを一つにしてパフォーマンスを披露し、祭り最終日の夜を最高に盛り上げます。

昨年は、ジュニア部門と一般部門に合わせて18団体、計1324人が参加。ジュニア部門では「SUPER DANCER花ノ木っ子（花ノ木小学校）」が、一般部門では「西尾高等家政専門学校」が見事グランプリに輝きました。今年は19団体が参加。「西尾小唄06」に乗せて、息の合ったパワフルなダンスを披露します。西尾市出身のアナウンサー・沢朋宏さんの熱く、ユーモラスな司会も注目です。

町ぞろい

かつての祇園祭では、祭り前夜にちようちんを灯し、本番に向けて機運を盛り上げる「町ぞろい」が行われていました。この町ぞろいは平成26年に復活。今年も本町通りで各町の祭礼道具などが勢ぞろいします。



静かに出番を待つ
6つの町の祭礼道具

今年の主なプログラム

と き 7月13日(金)～15日(日)
と ころ 名鉄西尾駅西側一帯
問合先 商工観光課観光担当 (☎65・2170)

13日(金)

- ① 町ぞろい：午後6時30分～9時
- ② 手踊り：午後6時30分～8時30分



14日(土)

- ① 須田町子どもみこし：午前10時～11時30分
- ② 伊文神社神前奉納：正午～午後2時30分
- ③ 天王町獅子舞：午後1時～9時
- ④ 吾妻町親子獅子舞：午後1時～9時
- ⑤ 伊文神社みこし：午後3時～8時40分
- ⑥ 肴町大名行列：午後4時30分～7時30分
- ⑦ 本町屋形・先車展示：午後4時30分～8時
- ⑧ 中町大屋形：午後7時～9時



ボランティア
西尾市更生保護
女性会会長
伊澤まり子
さん
下矢田町

祭りの後も気持ち良く

毎年、西尾市更生保護女性会の理事30人ほどがクリーンスタッフとして参加しています。初めて参加した10年前はびっくりするほど路上にごみが散乱していましたが、年々ごみが減り、マナーの向上を実感しています。祭りの後もごみが少ない、きれいな西尾を目指しましょう。



地元小学生
西尾小学校5年
丸山 愛理
さん

祭りを盛り上げたい

総合的な学習の時間に西尾祇園祭の歴史などを調べています。いろんな世代の人が楽しめる祭りとして、続いてほしいです。おばあちゃんが子どもの頃、手踊りをしていたと聞きました。今年は私も参加し、見ている人が元気になるくらい、楽しく踊って盛り上げたいです。



踊ろっ茶・西尾
花ノ木小学校6年
三輪 匠蔵
くん

4連覇を目指して

去年初めて踊ろっ茶・西尾に参加し、3年連続のグランプリを取ることができました。みんなで息を合わせ、元気よく声を出しながら踊れたことが良かったと思います。今年も目指すはグランプリ。6年生としてチームを引っ張っていきたいです。キレのある踊りを見てください。



手踊り

浴衣姿の西尾小学校の児童や市民の皆さんが、「正調西尾小唄」「茶摘み唄」の曲に合わせて踊ります。振り付けは難しくありません。当日の飛び入り参加もできます。



祭りの始まりに華を添える手踊り

催し盛りだくさん

「天王町獅子舞」や「中町大屋形」「須田町子どもみこし」「本町屋形・先車」「吾妻町親子獅子舞」などは、祇園祭の歴史を存分に感じられる催し。みこしを担ぐ子どもたちの元気な声や、「ヨイコラ」と獅子舞を囃し立てる声が城下町に響きます。歴史公園会場では六万石フェスを開催。吹奏楽やバンド、ダンスなどのステージを楽しめます。その他にも催しは盛りだくさん。屋台が多く立ち並ぶ会場で、城下町の夏祭りを満喫してください。

祭りを上から眺めてみよう！

クレーン車のゴンドラに乗って、10分間、上から祭りを眺めることができます。

日時 14日(土)・15日(日)
午後5時～9時

場所 とんかつ錦駐車場
(塩町)

料金 300円

15日(日)

- ① 踊ろっ茶・西尾：午後5時15分～7時5分(表彰式は午後7時45分～8時30分)
- ② 伊文神社みこし：午後8時30分
- ③ 六万石フェス：午後4時～7時
- ④ 天王町獅子舞：午後4時30分～9時(午後4時からオープン・グセレモニー)
- ⑤ 六万石フェス：午後4時30分～9時(午後4時からオープン・グセレモニー)

